



## 弘道館の教育について

1




2

### 大正5年 栄一の水戸訪問

関東・東北・北海道感化院長  
協議会（大正5年5月27～29日）

栄一は中央慈善協会会長として  
講演をするため、大正5年5月  
28日・29日の2日間にわたり  
水戸を訪れる。



松戸市戸定歴史館提供

3

### 大正5年水戸訪問の行程

**【5月28日】**

- 8:00 上野駅発  
土浦駅・石岡駅で関係者の出迎えを受ける
- 11:52 水戸駅着 知事・市長等の出迎えを受ける  
水戸公会堂（昼食）・弘道館孔子廟見学
- 13:00 弘道館 感化院長協議会で講演  
彰考館文庫閲覧・偕楽園観覧
- 19:00 水戸公会堂 歓迎会  
清香亭（宿泊）

**【5月29日】**

- 9:00 県立商業学校 講演
- 11:00 水戸駅発





4

## 弘道館での講演

### 【演題】

感化事業に対する所感

(講演会冒頭)

水戸藩の学問に影響を受けたことや徳川慶喜に仕えたことなどを述べる。

↓

「水戸と云ふ土地には甚だ深い感情を有って居ります」

講演する学一 (イメージ)  
松戸市戸定歴史館提供



5

## 彰往考来



2代水戸藩主徳川光圀

## 彰考館

『大日本史』  
編纂所



6

## 彰往考来

過去を明らかにして  
未来を考える

7

## 水戸藩の学問の特徴

先見性  
実践性  
国家的視野



9代水戸藩主徳川斉昭

8

## 吉田松陰と水戸



吉田松陰肖像  
(霊山歴史館提供)

吉田松陰は、東北遊学の途中、嘉永4年(1851)12月19日から翌年1月20日まで水戸に滞在し、会沢正志齋ら水戸藩の学者のもとを訪れて学問交流を深めた。

松下村塾では、水戸藩関係の書物が盛んに読まれていた。

獄中での手記に「余深ク水府(水戸)ノ学ニ服す。謂ヘラク神州ノ道斯ニアリト」と記している。

9



10

## 水戸藩の成立



水戸城三階櫓

水戸藩は、慶長14年(1609)に徳川家康の第11子頼房が水戸に入封して成立。

水戸藩の基礎は、初代頼房から2代光圀の時代に築かれ、城下町の建設、家臣団の構成、藩の支配体制などが整えられた。特に光圀は、藩政に力を注いだだけでなく『大日本史』の編纂など大規模な文化事業を展開した。9代斉昭は藩政改革の一環として藩校建設を実現。

11

## 水戸藩9代藩主徳川斉昭



9代藩主  
徳川斉昭

### □略譜

寛政12年(1800) 7代藩主治紀の三男として誕生  
文政12年(1829) 9代藩主となる (30歳)  
天保4年(1833) はじめて就藩 (34歳)  
天保8年(1837) 天保の改革をはじめ  
天保11年(1840) 就藩、追鳥狩・検地など実施  
天保12年(1841) 弘道館の開設 (42歳)  
天保13年(1842) 偕楽園の開園 (43歳)  
弘化元年(1844) 幕府の命で致仕謹慎 (45歳)  
嘉永2年(1849) 藩政関与を許される (50歳)  
安政6年(1859) 安政の大獄、水戸に永戔居  
万延元年(1860) 桜田門外の変、謹慎中の水戸城内で没 (61歳) 烈公と諡 (おくな) される

12

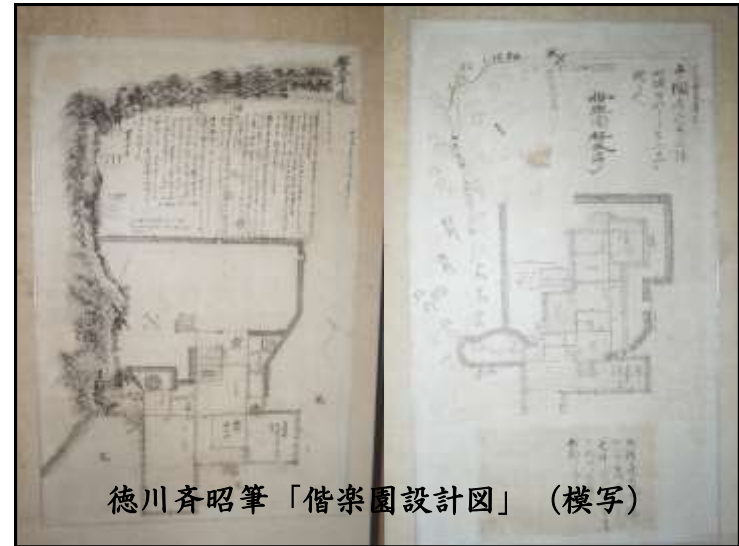
## 齊昭の多才さ・関心の広さ



9代藩主  
徳川齊昭

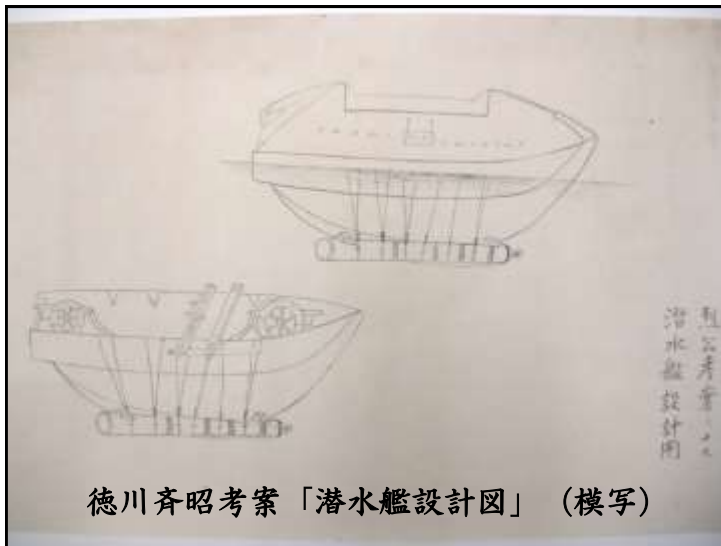
- ◇洋学の摂取
- ◇医学の知識と種痘の実施
- ◇食菜録-医食同源
- ◇書物の執筆・編纂
- ◇諸公子の教育
- ◇建築の知識と様々な発明など

13



徳川齊昭筆「借楽園設計図」(模写)

14



徳川齊昭考案「潜水艦設計図」(模写)

15



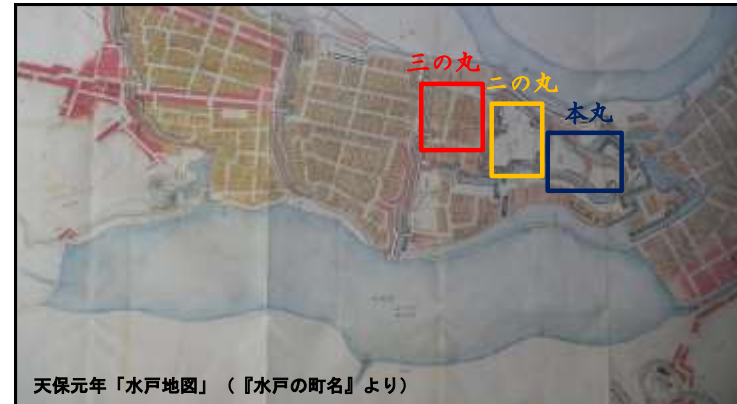
徳川齊昭考案「安神車の図」(模写)

16

## 弘道館の創設

天保 9年(1838) 「弘道館記」公表  
天保10年(1839) 弘道館の敷地決定  
天保11年(1840) 弘道館建設着手  
天保12年(1841) 仮開館式挙行  
天保14年(1843) 江戸弘道館開設  
医学館開設  
安政 4年(1857) 本開館式挙行

17



天保元年「水戸地図」(『水戸の町名』より)

水戸城下絵図

弘道館の敷地 = 水戸城三の丸

18

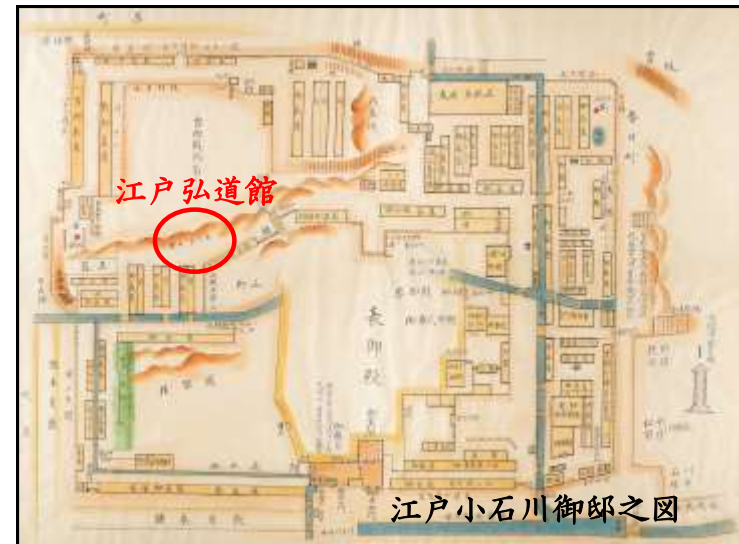
## 弘道館の位置



嘉永3年水戸城下武士小路図 (部分)

\*重臣12人の屋敷を移転させて弘道館を建設。

19

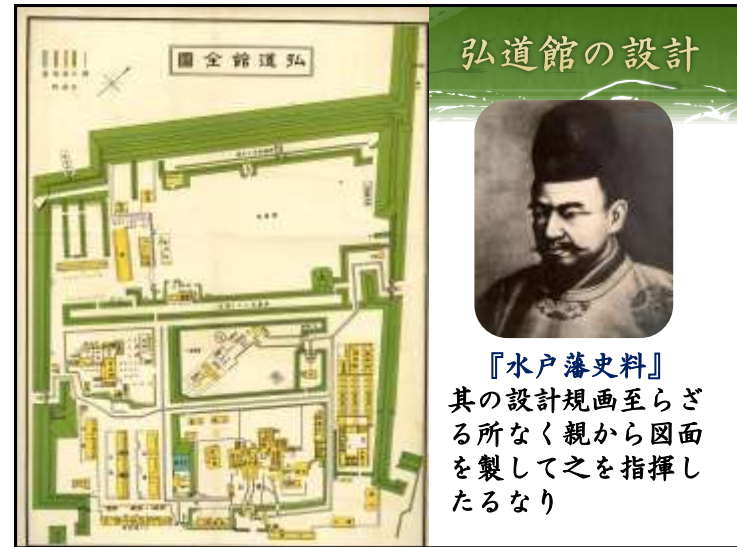


江戸小石川御邸之図

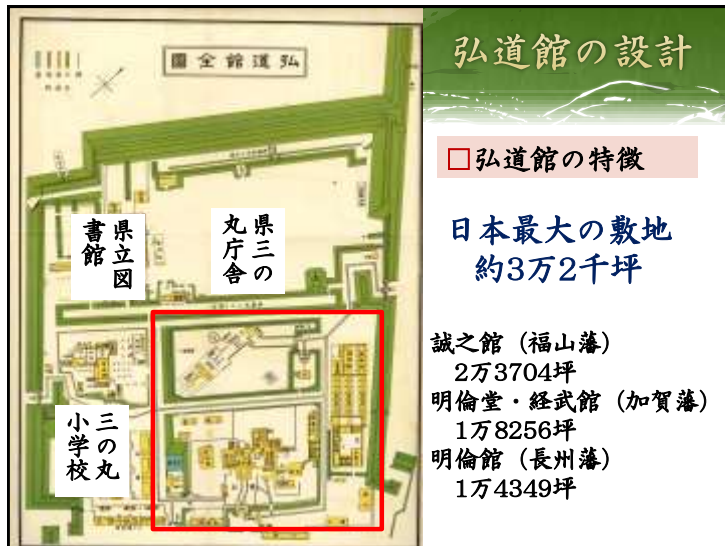
20



21



22



23



24

## 建学の精神—弘道館記—



弘道館記碑

「弘道館記」は天保8年（1837）に藤田東湖が草案を作成し、学者らによる検討が繰り返され、天保9年に斉昭の名で公表された。校名は「弘道館記」冒頭の言葉からつけられた。

### □ 5つの重要項目

- ① 神儒一致
- ② 忠孝一致
- ③ 文武一致
- ④ 学問・事業一致
- ⑤ 治教一致

25



学問に励む  
竹内百太郎

かすみがうら市  
歴史博物館提供

26

## 入学制度



青門肖像（青山延子の家塾で学んだ門弟たちの肖像集）

### □ 入学制度

水戸藩士とその子弟

家塾で基礎を学ぶ

→15歳で弘道館に入学

文館：論語や孝経などから出題される試験

武館：無試験

文館の登館者数

およそ1000人

27

## 就学年齢



### □ 修学年齢

15歳で弘道館に入学

卒業の年齢は？

15歳～40歳（30歳以上及び職務ある者は半減）

生涯学習

28

## 教職体制

### □教職体制

文館：教授頭取・教授頭取代・教授・助教・訓導・準訓導・管庫

武館：武術教師・同手副

医学館：医学教授・同助教・舎長・本草局長・画工・蘭学教師・監製薬医・製薬吏・頒製薬吏など

各分局：歌道教師・同手副・天文教師・数学教師・同手副・地図局長・音楽管頭・音楽役・諸礼教師

29

## 教育システム

### □学業の進展に合わせた教育

文館：講習生（会読生→輪講生）→居学生→舎長

\*居学生には三疊敷の個室が与えられる

### □学業の日課

身分別に毎月の最低出席日数が決められる  
1か月/15日間・12日間・10日間・8日間

\*身分の高い者ほど登館すべき日数が多い

### □修業時間

朝文夕武

\*午前は文館で学問・午後は武館で武芸

30

## 教育内容

### □教育科目

文学：儒学・歴史等の他、歌学・音楽・兵学・諸礼・天文・数学等の専門学科

武学：剣術・槍術・柔術・水術・馬術等

### □試験

文武大見分（年1回）

試文（月2回）



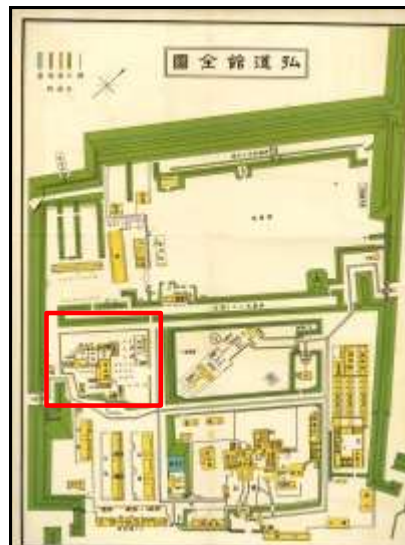
天文・和算の教科書

31

## 医学館

天保14年(1843)  
6月開設

水戸藩の医学教育・医療機関のセンター



32



## 医学館の主な活動内容



- ① 薬草栽培と製薬
- ② 牛酪の製造
- ③ 種痘の実施
- ④ 病人の治療
- ⑤ 「山海庶品」の編纂
- ⑥ 「蕃痧病の手当并治方」の作成・頒布
- ⑦ 蘭学の講義など

33

## 弘道館と偕楽園



「一弛」  
文武の修練



一對の施設  
斉昭の構想



「一弛」  
リラックス

34

## 弘道館の閉鎖



県庁舎がおかれていた頃(正門に「茨城県庁」の看板が掲げられている)

明治元年(1868) 弘道館の戦い  
 明治 4年(1871) 水戸藩廃止  
 茨城県誕生  
 弘道館は国有  
 明治 5年(1872) 館内に県庁設置  
 学制発布→閉鎖  
 明治14年(1881) 弘道館公園認可  
 茨城県の管理  
 明治15年(1882) 県庁移転

※明治・大正期：水戸幼稚園、水戸市高等小学校、茨城県高等女学校等の校舎として使用

35

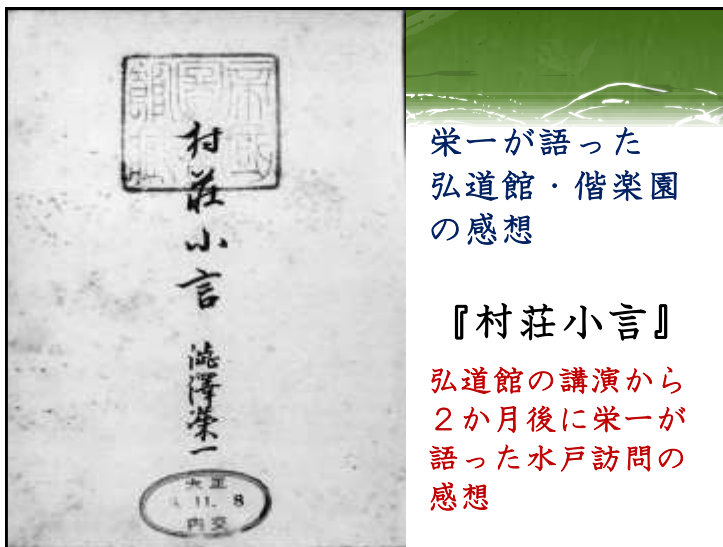
## 大正から昭和期の弘道館



修理工事完成直後の弘道館

大正11年(1922) 史跡指定  
 昭和20年(1945) 戦災で鹿島神社、孔子廟、八卦堂を焼失  
 昭和23年(1948) 都市公園に指定  
 昭和27年(1952) 特別史跡に指定  
 昭和28年(1953) 八卦堂復元  
 昭和34年(1959) 正門修理工事完成  
 昭和38年(1963) 正庁・至善堂等の修理工事完成  
 →一般公開開始  
 昭和39年(1964) 重要文化財に指定  
 昭和45年(1970) 孔子廟復元  
 昭和50年(1975) 鹿島神社社殿竣工

36



栄一が語った  
弘道館・偕楽園  
の感想

### 『村莊小言』

弘道館の講演から  
2か月後に栄一が  
語った水戸訪問の  
感想

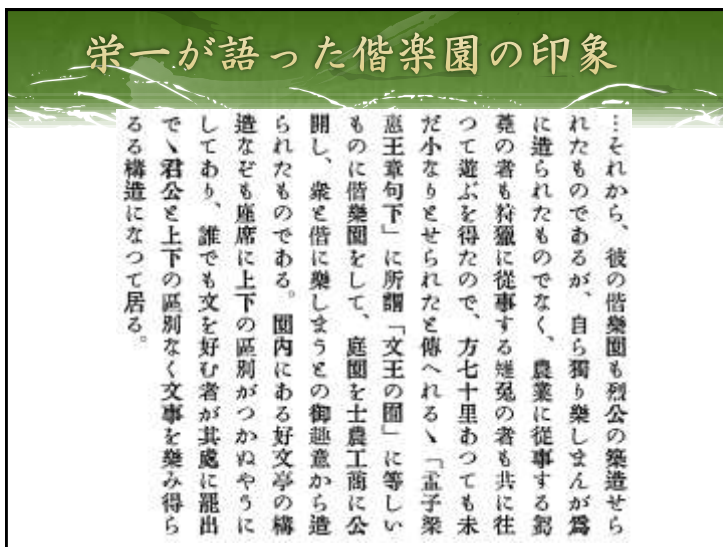
37



### 栄一が語った弘道館の印象

弘道館には「遊於藝」と題した大きな扁額が掲げられてあつて、これは烈公が天保十二年（七十五年前）に、六藝に通ずる士を養はんとの御精神より建設せられた一種の道場である。  
其處では、文武禮樂射御算数より銃砲の操練、醫術の末に至るまでを、課を分つて藩士と其子弟とに教へたものである。

38



### 栄一が語った偕楽園の印象

それから、彼の偕楽園も烈公の築造せられたものであるが、自ら獨り楽しまんが爲に造られたものでなく、農業に従事する鋤耨の者も狩獵に従事する雉兔の者も共に往つて遊ぶを得たので、方七十里あつても未だ小なりとせられたと傳へれる、「孟子梁惠王章句下」に所謂「文王之圃」に等しいものに偕楽園をして、庭園を士農工商に公開し、衆と偕に楽しまうとの御趣意から造られたものである。園内にある好文亭の構造なども座席に上下の區別がつかぬやうにしてあり、誰でも文を好む者が其處に罷出で、君公と上下の區別なく文事を樂み得らるる構造になつて居る。

39



### 東日本大震災による被災と復旧

40



震災直後の弘道館

41



震災復旧後の弘道館

42



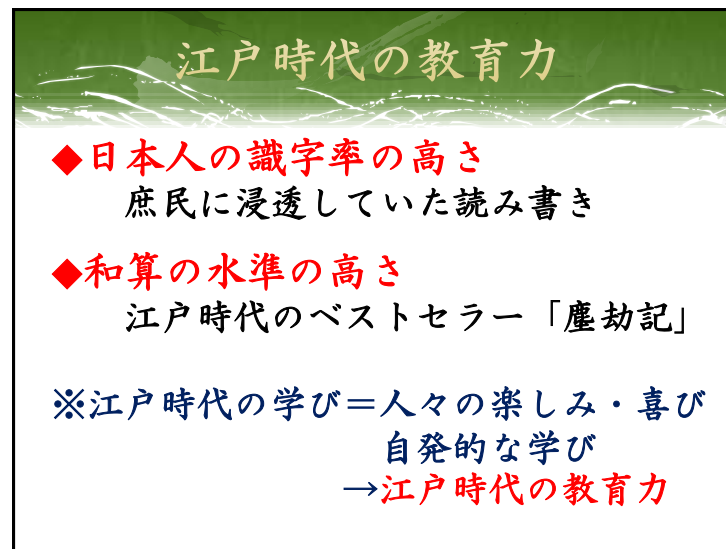
弘道館 (水戸市)

咸宜園 (日田市)

足利学校 (足利市)

閑谷学校 (備前市)

43



## 江戸時代の教育力

- ◆日本人の識字率の高さ  
庶民に浸透していた読み書き
  - ◆和算の水準の高さ  
江戸時代のベストセラー「塵劫記」
- ※江戸時代の学び=人々の楽しみ・喜び  
自発的な学び  
→江戸時代の教育力

44

## 江戸時代の平和

約250年間続いた江戸時代の平和  
の基礎＝教育の力

江戸時代の平和  
徳川の平和

ユネスコ憲章前文

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心に平和の砦を築かなければならない」

45

## 弘道館は心の遺産



46